

COMTRANS / 17 モスクワで開催 第14回ロシア トラックショー速報

文と写真・スヴェン・エリク リンドストランド(国際自動車記者)
訳・構成 西 襄二



COMTRANS / 17 コムトランス / 17 が9月4～9日の6日間、モスクワで開催された。2017年にヨーロッパで開催された最大のトラックショーである。

隔年開催、今回は通算14回目

COMTRANS コムトランスは本2017年にヨーロッパで開催された最大のトラック及び陸運展示会である。会場はモスクワの近代的クロクス展示会場だった。10年前に完成した会場だが先進性は色あせていない。会期は9月4～9日の6日間、ロシアの商用車の現状を知る良い機会であった。

ロシアのトラック市場はこの国の経済状態に敏感に反応する。産油国であり天然ガス輸出国であるこの国の経済はこれらの市況に依存しており、国庫収入が国際価格に完全に連動しているといつてよい。

過去2年、市況は軟調であったがここきて盛り返してきており、本年のこの国のトラック市場は冬眠から覚めて回復基調にある。COMTRANSは隔年開催のショーで今回は通算14回目だが、国の経済状態を反映して賑やかに開催された。

会場の展示面積は4万㎡で2015年の前回より5%拡張されていた。東京のビッグサイトの東館全面積が約51,400㎡だからその規模がイメージできるだろう。

老朽化している商用車

ロシアには凡そ800万台の保有商用車がある。2009年以来、保有数は概ね13%、数にして100

万台増加したとされる。このうちの半数以上は2002年以前の製造になるもので、2台に1台は車齢15年超ということになる。こうした800万台の全保有商用車中の車種構成は、凡そ50%が軽量車(LCV)で、45%が中・大型車(M/HCV)、残りの5%が市街地路線バスと観光バスである。過去最高の販売台数を記録した2012年以来、商用車市場は急激に冷え込み2015年に底を打ったのだが、その時の新車市場規模は最悪であった2009年当時に並ぶ低さだった。

現在の市況

2017年の前半期(1～6月)にロシア国内で製造されたトラックは31,100台で、これは前年同期比で47%増であった。

ロシア国内の大型トラック販売は70%が国内産でKamaz カマズ、Ural ウラル、GAZ ガズなどのブランドで占められているが、この中にはベラルーシのミンスクで生産されているMAZ マズ車も含まれている。他に10%はアジアにルーツのあるISUZU(日本)、FAW 及び FOTON(中国)、Hyundai(韓国)などである。残りの20%がヨーロッパに本拠のあるBig Seven 7大ブランドが激しく競り合っている。多くはロシア国内に製造拠点を設けているが、これは輸入車に対する高率の関税対策である“現地化”となっている。



このショーで初公開された KAMAZ カマズの新型 54901 型車。メルセデス・アクトロスの第4世代と同じ最新の SFTP 型キャブを搭載してデビューした



KAMAZの最新型車。キャブはメルセデス・アクトロスの第4世代型が供給されている



Ladaのピックアップ4×4車。広大な国土で冬期の機動性に全輪駆動は欠かせない仕様。デザインは伝統的だ

VOLVO車

ヨーロッパのブランドの中ではVOLVOが最大のシェアを保っている。44年に及ぶ実績の賜である。1973年、旧ソヴィエト連邦から最初の発注を受け100台のF86型トラックが納入された。ユーザーは国策会社であったSOVTRANSVTO（ソヴィエト自動車運輸社）で国境を跨いだ陸運業務に投入された

歴史がある。これが最初のロシア国営企業との包括契約であった。VOLVOのF12型車もソ連時代に多数納入された経緯がある。

今回のCOMTRANS展では7台を出展した。スウェーデン車を代表するF12型車の場合、現地では「FHバイキング」の名前で親しまれている。

VOLVOのレース車も出展され、レースドライバーのBoije Ovebrink ボイエ・オヴリンクは来場者の人気の的になってサインを求められ、カメラにポーズをとるのに忙しかった。



ボルボの展示場。スウェーデンの国旗をイメージした塗色のVOLVO FHは高性能仕様車で、ロシアでは「FHバイキング」のキャッチで販売される



旧ソヴィエト連邦時代、国有企業のソヴランスアウト陸運会社に採用されて稼働していた当時のVOLVO F88とF89型。ボルボにとってその後数万台を収める画期的な出発点であった。1970年代のことである



ボルボが出展したレーシングトラック「Iron Knight 鉄の騎士」。レーシングドライバーのボージェ・オーバーリンク（左）は会期中来場者の人気の的でボルボの広告塔を務めた。クレアス・ニルソン ボルボトラックス社長兼CEOと

新型SCANIA車

外国ブランド車としてメルセデス・ベンツ車と2位を分け合ったのは SCANIA 車である。Södertälje ブランドはロシア国内では最も歴史を刻んだ車で 100

年超の実績がある。ツアー皇帝時代に既に納入実績があった。Scania 車は今回、モデルチェンジした最新型を出展した。会期開幕の前夜祭で、この車は“ロシア・トラック・オブ・ザ・イヤー”賞に輝いた。スカニアのロシア国内製造拠点はサントペテルブルグにある。



SCANIA の新型車は会期第 1 日目の夜、ロシア・トラック・オブ・ザ・イヤー賞を受賞した。トロフィーを受けたウォンジェッチ・ロウニンスキ CEO

Daimler ダイムラー社 積極的な動きを見せる

ダイムラー社は 2008 年にロシア最大の KAMAZ カマズ社に 10% の資本参加を行い、ロシア国内メーカー入りを果たした。これにより、Mercedes Benz メルセデス・ベンツ車と FUSO ふそう車はカマズ社の大きな既存の販売網とサービス拠点の利用が可能となった。2014 年には株式保有率を 15% に積み増している。

並行してカマズとダイムラー両社は 50%-50% の合併会社を立ち上げ社名を Daimler KAMAZ RUS とした。当社は Actros、Arego、Axor、それに Unimog などの各車に加え、FUSO Canter 車を製

造する。同時に新たにキャブ製造工場を立ち上げ、共同調達組織も稼働させた。2000 年以降、同社のラベルツニエ チェルニー工場では合計 2 万台の生産を記録した。内訳は 1 万 2 千台がメルセデス・ベンツ車、8000 台が FUSO 車である。ダイムラーはカマズに対して Merced Huts メルシード ハッツの名称で OEM 車を供給し、今年は KAMAZ 車として 54901-K5 型トラックを発表した。キャブは最新の第 4 世代のメルセデス・ベンツ Actros 車用と同一である。

Daimler KAMAZ RUS ダイムラーカマズロシア社のヘイコ・シュルツ CEO は、輸入車中のナンバーワンを必ず達成すると声明している。販売面で 70 社の協力店があることも強みだ。



ダイムラー社は今回の会場で最大のスタンド面積をとって MercedesBenz メルセデス・ベンツ、FUSO ふそう、KAMAZ カマズの各ブランド車を展示した



Daimler Kamaz RUS ダイムラー・カマズ・ロシア社は国内外の随一企業同士が手を結んだ連合として輸入車大手を目指す。カマズの代理店 70 社のネットワークを活用出来るのも強みだ。Actros の第 4 世代最新型車の前に立つのはヘイコ・シュルツ=ダイムラー・ロシア社の社長兼 CEO。ロシア市場における輸入車の中でナンバーワンとなる明確な意図を示した



FUSO は CANTER eCell を出展した。EV である。Daimler の中に FUSO ブランドはしっかり取り込まれ、地域の特性に応じて大型から小型まで夫々の存在感を示している

最新のActros 車

メルセデスは一つ前の Actros 車と Axor 車に V 型エンジンを搭載したモデルも出展したが、本年は最新型もこれに加えられた。ヨーロッパでは 2011 年に“戦略的将来型トラクタ・プラットフォーム”とのふれこみで発表されたモデルである。その後の開発でエンジンは直6の HDEP 現行シリーズが搭載された経緯がある。

その他の欧州車

このショーで初公開だったのは、DAF の XF 480FFT モデルで、スーパースペースキャブが搭載されたモデルであった。ロシアでの発売開始は 2018 年初の予定だ。

ルノートラックスはヨーロッパ大手7車中ロシアでのシェアが最も小さいが、かつての Magnum マグナム車や Premier プレミア車のような勢いをとり戻すべく 10% のシェア回復に向けて力を入れた展示だった。



DAF 車は XF489FT 型スーパースペースキャブ搭載モデルを 2018 年からロシア市場で販売を開始する。ロシアに製造拠点を持たないので輸入車扱いであることを説明する DAF 社のアリエ・ヘンドリックス CEO



・・・ルノーのスタンドの一角には“PHOTOLAB 写真室”が開設されており・・・



・・・筆者もこんな写真を記念に持ち帰った



フォードの大型トラック。トルコのフォードオトマン社で設計と製造が行われており、ロシアで販売される



Renault Trucks ルノートラックスはロシア市場での“再起動”を期して戻ってきた

アジア車も会場を賑わす

日本からはいすゞ、日野の両社が意欲的な出展を行っていた。

いすゞ自動車のスタンドでは、最新のモデルを揃えて力が入った展示だった。ロシア市場では目新しい天然ガス・エンジン搭載車が注目の的。フォワード 18.0 には温度管理仕様のバン架装でテールゲートリフトも装備していた。シャシは NMS85 型全輪駆動で冬の長いロシアの道路事情をよく研究している。エルフでも CNG エンジン搭載車 NPR82 型が出展さ

れた。これまでガスエンジン搭載車はロシアでは手に入らなかった。ディーゼル車の有力な代替車としてロシアでの普及に期待の声がある。D-MAX 車はロシアでは未だ珍しいピックアップ車として注目されていた。

日野はディーゼル車主体に 4 台を出展した。日野本社広報部門を経由して入手した出展コンセプトは「日野自動車は 2008 年のロシア市場参入以来、ロシア全土で販売を続け、高い品質、高い耐久性を好評頂きながら、幅広く多くのお客様にご利用頂いている。ロシア市場での一層の知名度向上の為、今回、新型の 500 シリーズを展示の目玉に据え、高い品質を誇る日野のトラックを紹介した」であった。



ISUZU のスタンド風景



ISUZU ELF の CNG エンジン搭載シャシ



ISUZU FORWARD のドライバン



ISUZU GIGA 6×4 セミトラクタ



HINO のスタンド全景。左はダンプ車



HINO の 300 型車載車



HINO の 500 型。温度管理機に Thermo King を採用した温度管理バン型車

中国からは FAW (First Auto Works 第一汽車) と Foton (福田汽車)、JAC (江淮汽車) などの出展があった。一方、Dong Feng 東風汽車は出展していなかった。因みに当社は Volvo と資本提携関係にある。



中国の FAW 一汽解放汽車はロシア国内でも販売している 8×4 ダンプを出展。手前のエンジンは自社製



FAW の 6×4 トラクタ用シャシ



中国からの出展。Foton Auman EST フォトン・オウマン EST 車は現行の Mercedes Actros メルセデス・アクトロス車第4世代キャブに極似のキャブを搭載している。メルセデスはフォトンに対して提携協定を2000年代初期に締結している



中国の FOTON AUMARK 車。温度管理機は Thermo King が搭載されている



中国の JAC 江淮汽車のスタンド

韓国の Hyundai 現代自動車は Mighty マイティ車の販売を始める。



韓国現代自動車の Hyundai Mighty 車



JAC の N65 型車



JAC の N75 型車

Euro ユーロ4 基準適合車

排出ガス基準については、2012年1月1日まではユーロ3基準適合車の販売が可能であったが、現在はユーロ4が適用されている。しかし、輸入車の多くは一段進んだユーロ5基準適合車である。いずれユーロ6への移行は時間の問題だが、世界一広い国土での燃料事情が不安定で未だ踏み切れないという。燃料中の硫黄分が多すぎるのが課題になっている。国境を越えてヨーロッパへ運行する業者の場合は、ユーロ6基準適合車が求められている。

モスクワの街でみたトラック達

前述したように、ロシアの街を走るトラックはこの国を巡る21世紀に入ってからの政治、経済の影響を受けて老朽化した車が多い。中には、わが国から中古車として輸出され、遙々極東から広大な国土を横断してモスクワに辿り着いたいすゞや日産ディーゼルの右ハンドル車が現役で稼働しているのを見ると、耐久性に富んだ車としての生きた証をみる思いがする。

そうした背景のもとで、商品力に工夫を凝らしながら今後の新車販売に注力する出展各社だが、わが日本車の動向に引き続き注目してゆきたい。

ロシア経済の現状(記者補足)

2008年から2009年にかけて米国発リーマンショックを引き金に世界を襲った経済危機はロシアにとっても厳しい影響をもたらした。その後緩やかに回復基調に乗ったとも見られていたが、クリミヤの併合、ウクライナ危機などによるロシアの政治・軍事的動きが欧米諸国の経済制裁を招き、その影響で国内経済は再び厳しい状態に転じた。

2014年にルーブルを変動相場制としたことで対ドルレートは急落し、加えて原油価格の低落も重なって



モスクワの環状道路の交雑状態。流入車が絶えず麻痺状態が常態化している



片側4車線の幹線道路も通行量が多く、トラックが過半の状態だ。中央は当地の MAZ 及び KAZ 車。その後部に FOTON 車が見える

一段と厳しさを増した経済は、2016年から2017にかけて少しずつ持ち直す動きにある。しかし、企業の固定資産への投資に回る資金はなお不足しており、欧米なら7年程度で回転する固定資産がロシアでは14年程度と老朽化しているとされる。

トラックもこうした傾向にあることは筆者のコメントにもあったように、古い車が目立つ状態のようだ。しかし、これも限界に達した感がありもう我慢出来ない状態にあるとすると、今回の COMTRANS 展による刺激も効を奏してトラック販売が伸びる期待が持たれる。現在、そうした状態にロシアはあると言える。

次回の COMTRANS 展は2019年の9月に開催される。

(おわり)



年季物のキャブバッククレーン搭載の日産ディーゼル車。右ハンドルということは、多分、ウラジオストク辺りで中古車として輸入され、遙々モスクワまで運ばれたか



いすゞのキャブバッククレーン付平ボ・右ハンドル車。これも中古車で日本から輸入された車だろう



これはアメリカで販売されているボンネット型ボルボトラック。ドル高の影響で数は減っている